1964年1月 天 気 Vol. 11. No. 1.

551. 574

故中谷博士記念シンポジウム*

孫 野 長 治**

中谷先生を紀念して開かれた第13回 IUGG の氷晶と氷晶核に関するシンポジウムは稀にみる盛会であつた．これは関係分野ばかりでなく気象学会にとつても記念すべきシンポジウムと思われるので一出席者としてその模様を報告したい．

このような意味の会合が計画されていたことは，先年濠州の国際学会で IUGG の会長のバイヤース教授の口ぶりからも覗えたし，また昨夏の IAMAP の臨時プログラムにも中谷博士の退職記念に Session on Snow Crystals が予定されていた．ただ先生は当時すでに死亡されていたので，そのなりゆきを案じていたが，昨秋になって Symposium on Ice Crystals and Ice Nucleation と名前は変ったけれど，責任者に名大の磯野教授が任命されていよいよ具体的な形をとって来た．磯野教授の招待した話題提供者9人の中，4人までが日本人であり，一方バルチモア在住の先生の長女の咲子オルスン夫人の臨席も期待されたので，非常な盛会が予想された．

バークレイでシンポジウムの始まる二，三日前から磯野教授がバイヤース教授と会の次第を慎重に打合せ，また前日のさる委員会でバイヤース教授が特に発言して翌日記念シンポジウムのあることをアナウンスした．

当の8月27日の朝早めに咲子さんが到着した．私達は定刻前に会場の加州大学法学130番講堂にはいり皆で飾りつけを工夫した．咲子さんが持って来た雪の結晶の分類の掛軸を上下式黒板の裏の釘を利用して正面に垂した．先生の奥様の希望で特に運ばれた遺影の額を演壇の書見台にかざるつもりであったが，バイヤース教授はどこからか手頃な机を見付けてきてその上にたてかけ，写真の前に氷のエッチングピットをあしらった白い皿を配置した．この皿は先生の次女の芙二子さんがデザインして教授に贈ったものである．教授はさらに IUGG 事務長のゴドスン教授に何か耳うちをすると，博士は暫時姿を消したかと思うとフラッシュ付のカメラを首にかけて現れた．自分でシンポジウムの状景を撮影するつもりらしい．会場の最前列に左からわれわれ日本人が司会者の磯野教授を囲んで一団となり，正面に咲子さん，バイヤース教授，同夫人の順で着席した．こんなことで開会が10分ばかりおくれ，少い時間がますます減ったようである．

シンポジウムに先立ち，バイヤース教授は IUGG の会長として追憶と哀悼の辞を述べた．どちらかというと親友の死を悲しむ調子であった．つづいて咲子さんを紹介して労をねぎらい，次にくだんの皿の由来を述べるにあたって，芙二子さんから皿に付して教授にあてた手紙を朗読する段になると会場のざわめきもぴたりとしずまり教授の声も雲りがち，もろくも私は一瞬国外にあることも忘れ咽喉のつまるのを覚えた．

シンポジウムの次第は次の通りである．

Symposium on Ice Crystals and Ice Nucleation

(in honor of the late Dr. Nakaya)

Invited Papers

1) Tribute to the late Dr. Nakaya. K. Isono
2) Shape of Snow Crystals in relation to meteorological condition. C. Magono
3) Growth and conglomeration of snow Crystals. C.L. Hosler
4) Physical processes of growth of hailstone. W.C. Macklin
5) Natural nuclei of snow crystals. M. Kumai

* Symposium on Ice Crystal and Ice Nucleation, IUGG.

** Choji Magono, 北大理学部

6) Ice nuclei in the atmosphere.
E.K. Bigg

7) Mechanism ot separation ot charge in ice.
B.J. Mason

8) Solid state of ice crystals with special reference to problems of cloud physics.
A. Higashi

9) Mechanism of ice nucleation.
N.H. Fletcher

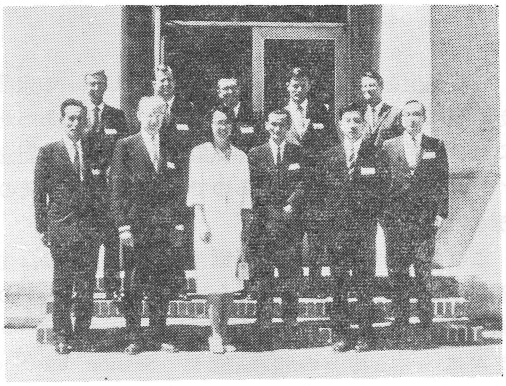
10) Experimental investigation of ice nucleation. K. Isono

始まってしまえば普通の学会と異るところはない．講師は各々得意とするところを発表しているので内容も題目から想像される通りであった．ただこの中で Mason の分は Lathem が代読したし，最後の Fletcher (Bigg が代読予定）及び磯野教授の分は時間切れのためキャンセルされた．

もともと時間が足りないところを壁頭の私が10分ばかり超過して全く申し訳ない次第で，こんなことが許されたのは司会が磯野教授なればこそと感謝する次第である．とにかく日本人が多かった故か，こんな気楽に感じた講演は始めてで，そういえばシンポジウムといっても研究発表会と大差なかったような気がする．途中で会場を見渡すとさしもの講堂が満員の盛況で，先生の偉業をたたえるにふさわしい盛会であった．

シンポジウムの終了後，バイヤース教授の発案で口絵のような関係者一同の記念撮影をおこなった．帰国後，東大の茅先生にシンポジウムの話をしたら，国際学会には滅多にないことの由である．IUGG としては最高の敬意を表したものであろう．

ひるがえって吾々の講演の内容が先生の偉業を継ぐにふさわしいものであったか否かとなると誠に心許ない次第である．しかし日本から出席したのはほんの一部にすぎない．研究者の量と今後の可能性を考慮すれば，雲物理学の現状は先生にみてもらっても「まあ，そんなところだろう」くらいの点数は頂けるのではなかろうか．



氷晶・氷晶核に関する中谷博士
記念シンポジウム関係者一同
（昭和38年8月27日，IUGG）
前列左から磯野教授，バイヤース教授（IUGG 会長）咲子オルスン夫人，孫野教授，東博士，熊井博士，後列左からホスラー教授，マツコラン博士，ベンダー博士，ラセム博士，ビグ博士
（熊井博士撮影）

理事会便り

第12期 第19回 常任理事会議事録

日　時　昭和38年12月16日（月）17.00～21.00
場　所　いづみ
出席者　畠山，吉武，須田，有住，岸保，増田，松本，今井，正野，淵各理事（順序不同）
中村（鈴木委員代理）

決　議

1．国際雲物理会議の組織委員会（第12期）を次のとおり構成する．
畠山（委員長），正野，吉武，須田，岸保，今井，孫野，磯野，高橋，鯉沼，淵各委員（順序不同）

2．明年度大会および総会の期日を5月20日（水），21日（木）22日（金），会場を気象庁とし，大会委員長に同長官畠山久尚氏をお願いする．

3．第13期選挙管理委員会委員を次のとおりお願いする．
木村　耕三（委員長）　木山　斎
伊藤　昭三　菊地　幸雄
奥山　熊一　松野　太郎
なお，会員名簿は4月1日付とする．

4．日中学術交流関係の論文を「天気」にのせる．

5．理事会（全国）と評議員会の合同会議を明年1月14日に開催する．